

国民公園新宿御苑について

1 概要

場所：東京都新宿区・渋谷区

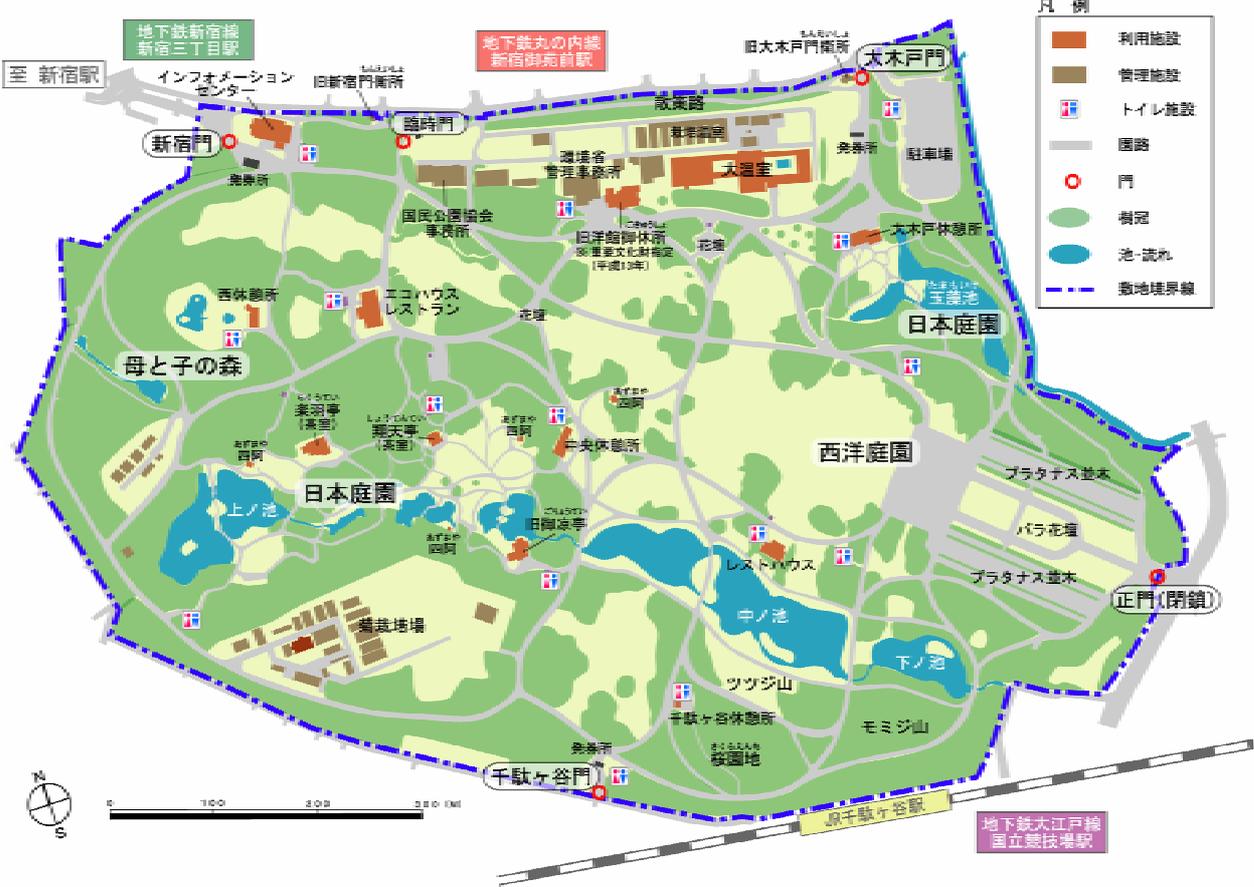
面積：約 58.3 ha

入園者数：年間約 100 万人以上

特徴：独特の庭園様式と旧皇室苑地としての歴史を持ち、散策、休憩、庭園観賞などに広く利用されているほか、ヒートアイランド現象など都市環境の緩和や都市景観の形成など多様な機能を果たしている。

春のサクラの時期と晩秋の菊、紅葉の時期は、特に多くの利用者でにぎわう。

平成 18 年は、明治 39 年(1906 年)に「新宿御苑」の名称になって、100 年目である。



2 沿革

江戸時代 : 現新宿御苑の敷地の大部分が、高遠藩内藤家屋敷

明治 5 年 : 政府が内藤家土地と隣接地買い上げ、官営農業試験場「内藤新宿試験場」設立。以後、近代園芸の導入口としての役割を果たす。

明治 39 年 : 大規模改修の後「新宿御苑」と改称される。明治後期から昭和前期にかけて皇室の庭園として、皇室の行事、レクリエーションの場として利用される。

昭和 24 年 : 国民公園新宿御苑として、一般に開放される。

昭和 32 年 : 大温室完成。

昭和 47 年 : 厚生省から環境庁へ移管。

平成 元年 : 昭和天皇御大葬。

平成 18 年 : 「新宿御苑」の名称となって 100 周年を迎える。

3 大温室の概要

温室の構成 : 観賞温室は、ヤシ室、亜熱帯室、花木室、熱帯スイレン室、ラン室の 5 棟の加温式温室で構成

面積 : 観賞温室全体 (通路含む) で 3,158 m²

特徴 : 明治初期に内藤新宿試験場内に設置された温室に始まる歴史を持ち、戦前は、皇室の温室として、洋ランの栽培に力を入れる。戦後、一般に公開され、洋ランなどの歴史性のある植物、ヤシ、熱帯果樹、花木などの熱帯性の観賞性の高い植物、絶滅のおそれのある植物などを展示している。

4 利用情報

開園時間 : 9 : 00 ~ 16 : 30 (入園は 16 : 00 まで)

休園日 : 毎週月曜日 (月曜日が祝祭日の場合は、その翌日)、年末年始 (12 月 29 日 ~ 1 月 3 日)。桜と菊の時期の特別開園機関は無休。

入園料 : 大人 (15 歳以上) 200 円 (団体 50 円)

小人 (6 歳以上 15 歳未満) 50 円 (団体 25 円)